

秋季研究会 第4分科会

(研究の柱) 学校事務の組織化

分科会テーマ

視点が変われば、意識が変わり、さらに教育も変わる？

～カリキュラムマネジメント力をつけよう～

担当：研究部

1 目的

事務職員としてカリキュラムマネジメント・地域連携にどう関わっていくか、キャリアに応じた具体的な実践を考え、学校組織内での新たな役割を探る。

2 内容

(1) カリキュラムマネジメント概要、事例紹介

・テーマ設定

つぐみ（学校事務グランドデザイン）が掲げる基本理念「つながり行動する事務職員」、福井県事研平成30年度サブテーマ「共に教育を創造し、実践する学校事務」を念頭に置き、研究部では「共に教育を創造し、実践する学校事務」を実現するために事務職員は何をするべきか話し合いを重ねた。様々な案を検証した結果、学校唯一の行政職としての専門性に教育的視点をプラスすることが必要ではないかという結論に至った。そのためには新学習指導要領で掲げられるカリキュラムマネジメントに携わることが重要であると考えた。

～「つながり行動する事務職員」～
～「共に教育を創造し、実践する学校事務」～
を為すために

研究部で話し合い・・・

「学校唯一の行政職としての専門性に
教育的視点をプラス」
していくことが重要！！

見えてきたこと

意識に大きな差がある



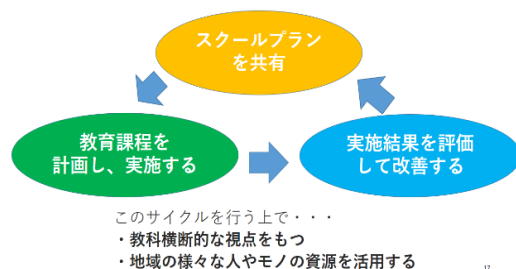
職務に対する意識のステージが移行している

→ ちょっとした気づきによる学校運営参画

→ カリキュラム・マネジメント

・カリキュラムマネジメントの概要を説明し、実践事例を紹介した。

カリキュラム・マネジメントとは？



事例紹介1 学校の記録係

学校行事や外部講師を呼んでの授業写真を撮る仕事を任された。
記録係としての役割

学校だより、HP用の写真を撮る
来年度の行事準備資料として使う



視点を変わると・・・

授業を見ることで、どんな備品が使われているか分かる
有効な備品の使い方を提案できる

多様な意見を出すため、参加者は下記の専用ワークシートに記入した上でロールプレイングを行う。

- 私の配役

1

主な活動（取組）内容 ※ 文面から読み取れるもの

 - ・
 - ・
 - ・

（※ 文面以外で想定してみましよう）

ボシティブ・シンキング（＝学校の強み）

 - ・（例）地域を愛している
 - ・

ネガティブ・シンキング

 - ・（例）ほかの団体のことをよく知らない
 - ・

事務職員のマネジメント（つないでみよう）

・いつ	・何を	・配属すべき人
・ だれに	・ どのような方法で	・ 期待される結果

2

- ・ 共同実施で他の事務職員に広報活動の有効性を伝える。
- ・ 各団体からの申し出を窓口として受け入れ、担当主任に相談する。
- ・ 各団体からの申し出に対して、子どもの教育に有効な方法を提案する。

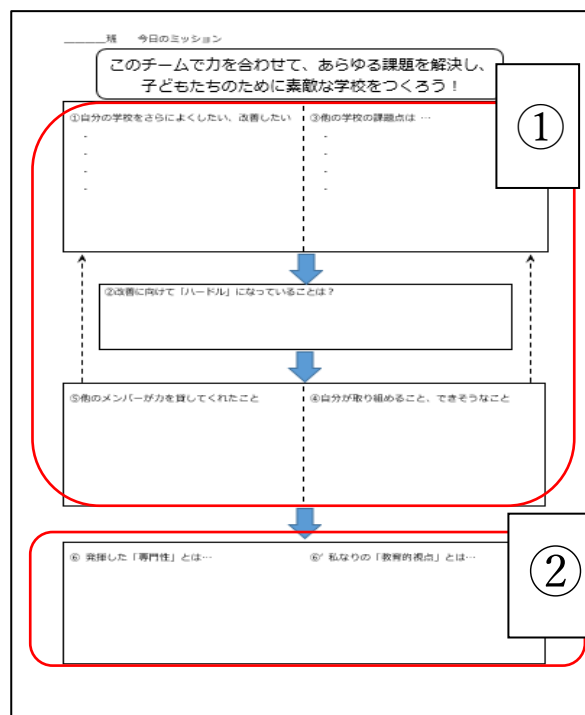
- ・資源回収日は家庭地域学校協議会で決定したことになるので、変更しにくいと思われる。
まずは共同実施等を利用して他学校の情報を収集する。
- ・資源回収収益金の振り分けは小学校と中学校でどのように配分するか。小中PTA合同会議を開き、事務職員含む関係者全員で良案を模索する。

(3) 学校の課題解決に向けてどのような方法が考えられるかをグループで討議

事例2で話し合った同じメンバーであらゆる学校の改善点などを話し合い、子どもたちのために素敵な学校をつくるにはどうしたらよいか考える。

- ① 参加者は学校の改善点や、改善に向けて障害となるものについて記入する。その後、メンバー間でそれぞれが記入したことを共有し、課題解決のために自分が出来ることや他のメンバーが協力してくれそうなことを記入する。

- ② グループワークを通して事務職員としての専門性を発揮したこと、自分なりの教育的視点で考えたことを記入し、グループ内で共有する



《ある班での話し合いの内容》

【課題】

備品の整理が出来ておらず、子どもの学習環境に悪影響を及ぼしている。

【解決策】

- ・なぜ整理が出来ないのか根本的な原因を突き詰める。原因を踏まえた上で整理をしないと、一度整理してもまた同じ状態に戻る。
- ・備品台帳に物品の場所を記入して、紙媒体で印刷したものを各備品の保管場所に貼る。その際は、子どもの目につきにくい場所に貼る。(教室の後方や棚の内側など) 視界に入るこ

とで集中できない子どもが出てくるため。

【発揮した専門性】

共同実施を通じての情報共有。

【教育的視点】

印刷した備品台帳を貼る際は場所に注意する。(ユニバーサルデザイン)

3 助言者講評

愛知教育大学 教育支援専門職養成課程 風岡 治 准教授

前半のシナリオに基づくロールプレイングについて、登場人物の視点で発言し、なお且つ事務職員がどのようにつながり行動するかを考えることで、対処の選択肢が広がる。また他者理解につながり、柔軟な対応が可能になる。事務職員の立ち位置（主任、主査、主事といった事務職員の立場）による対応の違いも考えていけるとよい。

後半の学校の課題解決について、ワークシートの内容を一つ一つ遂行していくことがマネジメントであるといえる。このワークシートのようなツールを活用して学校の課題に向き合っていくことで、事務職員のマネジメント力は向上する。

分科会全体を通して、研究部が取り上げたいいくつかの事例は学びの総体をカリキュラムマネジメントとして捉える広義の考え方といえる。文部科学省はカリキュラムマネジメントを三つの側面から捉えている。教育内容や授業実践と教育活動に必要な人的・物的資源などを効果的に組み合わせ、条件整備を進めていく役割は事務職員にある。その際に行政的な視点だけでなく、教育を理解し教員とともにカリキュラムマネジメントを実施することが求められる。また、今回学んだことを自分自身の知識としてインプットするだけでなく、管理職や他の教職員に話すなどアウトプットを意識することで、自分の中の理解が進む。積極的にコミュニケーションを取ってほしい。

4 まとめ

参加者は登場人物と事務職員の二つの視点でロールプレイングを行ったことにより、教育的視点とはどういうことか実感できたのではないだろうか。

今後は事務職員が新学習指導要領を理解した上で、各校での教育課程の編成・実施に関わりながら、どのようにカリキュラムマネジメントに携わっていけるのかを研究し、子どもたちのために「つながり行動」し、「共に教育を創造し、実践する学校事務」を実現するためにどうすればよいか考えていきたい。